

新たに令和六年度が始まりました。本年度も愛知県埋蔵文化財センターでは、さまざまな事業を計画しております。

まず、発掘調査では、設楽ダムや鹿乘川改良事業調査など、全部で九の事業で十六遺跡を対象に実施する予定です（下図を参照）。このうち西春日井郡豊山町で計画されている愛知県基幹的広域防災拠点事業などに伴う青山神明遺跡については、令和五年度から発掘調査を進めており、今年度は二万平方メートル以上の発掘調査を実施する予定です。その調査成果はホームページやYouTube動画、ツイッタなどで随時紹介し、現地の状況を公開する地元説明会などでもできるかぎり開催したいと考えています。

一方、弥富にある調査センターでは、最近までに発掘調査を終えた遺跡の調査報告書を作成するために、遺跡の整理作業を実施しています。本年度は設楽ダム関連の下延坂遺跡をはじめ、全部で七つの事業で十遺跡を対象に進めてまいります。

さて、今年度も広報・普及活動については、昨年度とほぼ同様の企画を多数計画しております。センターとして次の六事業を実施する予定です。

◎春の埋蔵文化財展 今年も「やとみ新発見展（二〇二四）」と題して、三月三十日から弥富の調査センターの二階にて、昨年度に発掘調査した二十七遺跡の最新成果をご紹介します。

◎連続歴史講座 四月二十五日から六月六日までの隔週木曜日の午前に歴史講座を計四回開講いたします。今年度は遺跡で発見される遺構や遺物からみることが出来る地域間の「交流」について学びます。縄文時代から中世までの人々のつながり方について、調査員が遺跡の発掘調査成果から読み解きます。

◎秋の埋蔵文化財展 十一月頃に、弥富の調査センターの二階展示室にて『秋の特別公開』に合わせて開催する予定です。期間中は、関連するイベントも実施したいと考えています。

◎考古学フェア『あいちの考古学2024』十一月六日から二十四日までの期間に金山の名古屋都市センターにて開催します。愛知県内を中心に考古学に関わる人々が集い最新情報を発表するイベントで、ポスター展示を中心に、シンポジウムや講座（考古学セミナー）や一般向けイベント（考古学フェア）も行います。

◎企画展『あいちの発掘調査2024』あいち朝日遺跡ミュージアムにて、令和七年一月十八日から三月八日までの期間中、令和五年度に実施された愛知県下の発掘調査成果の速報展を企画します。期間中は成果報告会などのイベントも行う予定です。

このほかに、あいち埋文サポーターズクラブを設置し、センターの埋蔵文化財関連事業に賛同いただける会員を募り、会員限定の見学会やイベントを行います。なお、十年間継続して行ってきた「設楽ダム関連発掘調査成果報告会」については、今年度は実施せず令和七年度以降に開催する予定です。

以上のように、今年度も積極的にさまざまな情報発信を進めてまいります。



埋文桜ニュース

発行日：二〇二四年四月一日
発行所：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017
愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
電話：0567-67-4163
ファックス：0567-67-3054
ホームページ：http://www.maibun.com/
メールアドレス：doki@maibun.com

令和6年度 あいち埋文サポーターズクラブ会員募集！
年会費1,000円で、クラブ活動に参加！クラブ活動は、専門家による現場検討会の見学や展示解説等盛りだくさん！

令和6年度 連続歴史講座
交流の考古学
4月25日(木) 10:30-12:00
5月9日(木) 要申込！
5月23日(木)
6月6日(木)

2024考古学フェア
考古学セミナー & ワークショップまつり！
11月5日(水)～11月24日(日)
金山：名古屋都市センター

春の特別公開 2024 収蔵庫に眠る逸品たち 4

<p>・縄文土器 深鉢 東光寺遺跡（幸田町）</p> <p>胴部には大柄の渦巻文を基調とする唐草文が施され、上部には立体装飾的な把手が付けられています。唐草文は縄文中期後葉、長野県中部高地を中心に分布する文様で、県内ではほとんど見られないものです。</p>	<p>・弥生土器 細頸壺 一色青海遺跡（稲沢市）</p> <p>口縁部から体部上半にかけて、廉状文、斜格子文など各種の文様が施され、側面には焼く時に付いたものと思われる黒斑が見られます。弥生時代中期後葉の方形溝溝墓の溝からほぼ完全な形で出土しているため、供献されたものと思われます。</p>
<p>・土師器 S字状口縁台付甕 廻間遺跡（清須市）</p> <p>口縁端部がアルファベットのSのような形で、「S字甕」とも呼ばれています。器壁が数ミリと非常に薄くて軽いのが特色で、2～4世紀頃、伊勢湾沿岸部に特徴的に見られる甕です。3世紀中葉の竪穴建物跡から出土しました。</p>	<p>・須恵器 脚付壺 惣作・鐘塚遺跡（瀬戸市）</p> <p>三方向に透かしの入った脚が付けられた壺です。蓋が伴いますが、自然釉の掛かり方などから蓋を被せた状態で焼かれたものと考えられ、県内で須恵器生産が始まってから間もない、5世紀後半頃の</p>

令和6年度 広報活動のお知らせ

4	1 (月) 12 (金)	埋蔵文化財新出土品展『やとみ新発見展(しんはっけんでん)2024!』&『春の特別公開!』 2023年度の発掘調査成果について、展示と展示解説を行います。	予約不要・参加費無料	<div style="background-color: #FF0000; color: white; padding: 2px; font-size: small;">*令和6年3月30日(土)・31日(日)は考古学縁日(こうがくえんにち)を開催!</div>
		会場：愛知県埋蔵文化財調査センター2階 収蔵庫C 開館時間：午前9時～午後4時 土・日閉館		
		連続歴史講座『交流の考古学』(全4回) 要予約(先着50名まで)・参加費無料	大人向き	
		毎年、弥富市にある愛知県埋蔵文化財調査センターにて実施している「連続歴史講座」。今年度のテーマは「交流の考古学」。ヒトやモノの交流を通じて、歴史の流れを概観しようと思います。		
		会場：愛知県埋蔵文化財調査センター2階 研修室 期間：令和6年4月25日、5月9日、5月23日、6月6日(各木曜日 午前10時30分～12時) *受講申込は、各回直前の火曜日まで。平日(9:00-16:00)、お電話(調査課：0567-67-4163)にてお申込みをお願いします。		
		第1回 4月25日(木) 鈴木正貴 「中世の交流 焼物からみる流通と模倣」 第2回 5月9日(木) 早野浩二 「古墳時代の『行く土器』、『来る土器』」 第3回 5月23日(木) 樋上 昇 「弥生時代における木材・木製品の地域間交流について ～濃尾平野を中心として～」 第4回 6月6日(木) 川添和暁 「縄文土器の様相から見える東海西部の地域性と他地域交流」		
		令和6年度 あいち考古学フェア『あいちの考古学2024』 愛知県下を中心に考古学に関連する情報を集め、また名古屋のまちづくりに関する研究成果を、専門家はもとより、一般の方々にも触れていただく機会として、考古学セミナーを開催します。あわせて、考古学の魅力を感じて頂けるように考古学フェスタを開催します。	どなたでも	
		【考古学セミナー】 予約不要・参加費無料(一部材料費必要) 各博物館や研究会、大学等の研究発表のポスター展示を約3週間行います。また期間中の土曜日や日曜日に、シンポジウムや口頭発表等を開催します。		
		【考古学フェスタ】 予約不要・参加費無料 より幅広く考古学の魅力をアピールするために、各研究会や博物館等によるワークショップを開催します。		
		会場：名古屋都市センター まちづくり広場(金山南ビル 11階) 火～金曜日：10:00～18:00 土・日曜日・祝日・振替休日：10:00～17:00 月曜日：休館(祝日・振替休日の場合はその翌日) 期間：令和6年11月5日(火)から24日(日)		
		令和6年度 あいち朝日遺跡ミュージアム委託事業 企画展『あいちの発掘調査2024』 令和5年度に愛知県内で実施された発掘調査成果にもとづき、速報展と報告会・講演会を開催します！	どなたでも	
		会場：あいち朝日遺跡ミュージアム企画展示室ほか 火～日曜日：9:30～17:00 月曜日：休館(祝日・振替休日の場合はその翌日)、年末年始(12月28日～1月3日) 期間：令和7年1月18日(土)から3月9日(日)		

<<協力事業のご案内>>
1.愛知県生涯学習推進センター講座「愛知の遺跡を学ぶ」 2.あいち朝日遺跡ミュージアム 体験！弥生ムラ
3.柴中日文化センター講座 4月～6月・10月～12月 4.清須市文化財講座



中狭間遺跡の土器棺墓



亀塚遺跡出土の土器の壺



寄島遺跡出土の壺

亀塚遺跡の大型方形周溝墓

鹿乘川流域遺跡群
 (安城市小川町・東町・桜井町・川島町)
 鹿乘川流域遺跡群は安城市の碧海台地東縁部を流れる鹿乘川に沿って南北に広がります。
 令和五年度には右図にある8遺跡で調査を実施し、弥生時代中期から古墳時代初頭を中心とした集落・墓地の跡と、平安鎌倉時代、江戸時代の遺構が確認されました。
 亀塚遺跡では、弥生時代後期から古墳時代初頭を中心とする河川の跡を調査し、大量の土器・木製品が出土しました。また、竪穴状遺構、溝、土坑からなる居住域を確認したほか、土器棺墓が1基、方形周溝墓が2基確認され、うち1基は規模が50mを超えるものと推定されます。
 中狭間遺跡では、土器棺墓4基、方形周溝墓4基が確認され、弥生時代中期後葉を中心とする墓地の一部と考えられます。また、平安鎌倉時代のものと思われる土坑群や溝も確認されました。

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡
 (北設楽郡設楽町川向)
 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は、設楽町の境川右岸の緩斜面上に立地します。
 調査では、鍛冶に関連する竪穴遺構や道状遺構のほか、江戸時代の土坑墓が発見され、そこからは副葬品と思われる銭貨、煙管、銅鏡、毛抜き、鬘盤などが出土しました。



江戸時代土坑墓出土の鬘盤と銅鏡



大型石柱



竪穴建物跡

野添遺跡
 (豊橋市石巻本町)
 野添遺跡は、豊橋市の豊川左岸に立地します。
 調査では、12棟もの掘立柱建物跡や井戸、それらを区画する溝が発見され、土師器、陶器といった出土遺物から、戦国期の屋敷地と推定されます。
掘立柱建物跡群

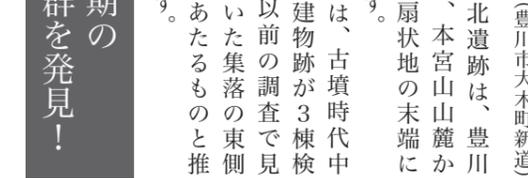


掘立柱建物跡群

縄文時代の岩偶が出土！
万瀬遺跡
 (北設楽郡設楽町川向字マンゼ)
 万瀬遺跡は、設楽町の境川右岸の緩斜面上に立地します。
 調査では、以前に実施した調査で発見されていた、縄文時代早期の竪穴建物跡群の続きが確認されました。
 遺物では、縄文時代の岩偶のほか、江戸時代の土坑墓からはガラス玉が多数出土し、別の土坑から鉄滓が出土したことで、江戸時代に鍛冶を行っていたことも分かりました。

縄文・弥生の集落跡を確認！
根道外遺跡
 (北設楽郡設楽町八橋字根道外)
 根道外遺跡は、設楽町のタコウズ川左岸の緩斜面上に立地します。
 調査では、縄文時代中期後半および後期末、弥生時代前期の3時期の竪穴建物跡が計11基発見され、遺物も土器のほか石棒など石器・石製品類が出土しました。

古墳時代集落の縁辺部を確認！
花の木北遺跡
 (豊橋市大木町新道)
 花の木北遺跡は、豊橋市の北部、本宮山麓から広がる扇状地の末端に立地します。
 調査では、古墳時代中期の竪穴建物跡が3棟検出され、以前の調査で見つかった集落の東側縁辺部にあたるものと推定されます。



縄文時代の岩偶

弥生時代の建物跡、土器棺墓、周溝墓、河川跡、土器、木製品等を続々と発見！

戦国期の堀・江戸時代の遺構を確認！
名古屋城三の丸遺跡
 (名古屋市中区三の丸二丁目六―二)
 名古屋城三の丸遺跡は名古屋城の南側に位置し、武家屋敷があった所です。
 戦国期の遺構では、断面形がV字になる薬研堀状の溝が5箇所、深さ5mに達する大型の溝が1条確認され、戦国期の那古野城を考える上で重要な成果となりました。
 今回の調査地点は江戸時代には武家屋敷でも屋敷裏にあたる場所で、17基の井戸や、水琴窟を含む埋蔵遺構、池の跡の可能性のある遺構も見つかり、ここに庭園があった可能性が示唆されました。

戦国期の堀・江戸時代の遺構を確認！
名古屋城三の丸遺跡
 (名古屋市中区三の丸二丁目六―二)
 名古屋城三の丸遺跡は名古屋城の南側に位置し、武家屋敷があった所です。
 戦国期の遺構では、断面形がV字になる薬研堀状の溝が5箇所、深さ5mに達する大型の溝が1条確認され、戦国期の那古野城を考える上で重要な成果となりました。
 今回の調査地点は江戸時代には武家屋敷でも屋敷裏にあたる場所で、17基の井戸や、水琴窟を含む埋蔵遺構、池の跡の可能性のある遺構も見つかり、ここに庭園があった可能性が示唆されました。

戦国期の堀・江戸時代の遺構を確認！
名古屋城三の丸遺跡
 (名古屋市中区三の丸二丁目六―二)
 名古屋城三の丸遺跡は名古屋城の南側に位置し、武家屋敷があった所です。
 戦国期の遺構では、断面形がV字になる薬研堀状の溝が5箇所、深さ5mに達する大型の溝が1条確認され、戦国期の那古野城を考える上で重要な成果となりました。
 今回の調査地点は江戸時代には武家屋敷でも屋敷裏にあたる場所で、17基の井戸や、水琴窟を含む埋蔵遺構、池の跡の可能性のある遺構も見つかり、ここに庭園があった可能性が示唆されました。



戦国期の薬研堀

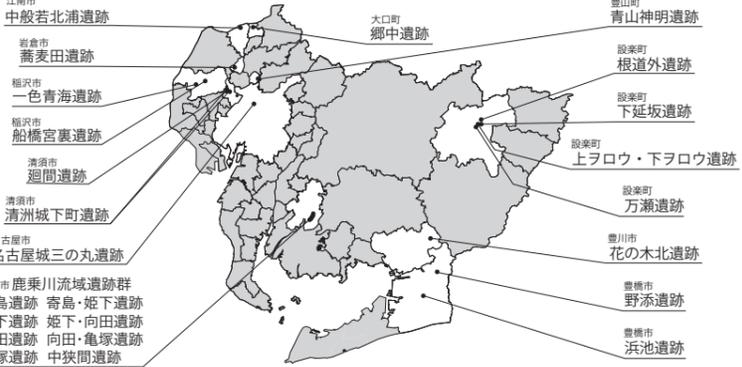


井戸の側板



江戸時代の埋壺

令和五年度発掘調査遺跡位置図



令和五年度の当センターでは令和五年度に、尾張地域9遺跡、三河地域15遺跡の合計24箇所の遺跡で発掘調査を行いました。このうちの16箇所について調査成果の概要を紹介します。

中世の遺構・遺物を発見！

中般若北浦遺跡
 (江南市中般若町北浦)
 中般若北浦遺跡は、江南市の北東端、木曾川の左岸に立地します。
 調査では川原石を多数並べた敷石遺構や2条の溝が検出され、溝からは中国産の青磁短頸壺が出土しています。他にも灰釉四耳壺など国産の陶器が出土しました。建物が建ちにくい立地や遺物などから、墓域であった可能性が考えられています。

集落の一端を確認！
蕎麦田遺跡
 (岩倉市大地町)
 蕎麦田遺跡は、岩倉市の沖積低地に立地します。
 調査では、古墳・平安・江戸時代の3時期の溝・遺物が発見されました。このうち、古墳・平安時代のは集落に伴うもの、江戸時代のは水路が小川川と推定されています。

複数時期の遺物が出土！
青山神明遺跡
 (西春日井郡豊山町)
 青山神明遺跡は豊山町の県営名古屋空港西側に位置します。
 調査では、古墳時代後期の土師器や中世江戸時代の陶磁器が出土しており、竪穴建物跡も確認されています。

北曲輪の推定地で石垣を確認！
清洲城下町遺跡
 (清須市清洲・市場)
 清洲城下町遺跡は、清須市の清洲公園に位置した清須城を中心に五条川沿いに広がります。
 令和五年度には3箇所を調査を実施し、屋敷地の区画溝と推定される溝や井戸、瓦が溜まっている遺構のほか、清須城の北曲輪の推定地では石垣も発見され、城下町期の様子が確認されました。

江戸時代の屋敷地の溝か
郷中遺跡
 (丹羽郡大口町上小口二丁目)
 郷中遺跡は、大口町の犬山扇状地に立地します。
 調査では、戦国期以前と幕末近代初頭の2時期の溝が発見され、陶磁器などが出土しました。当地は江戸時代には丹羽氏の本拠地であり、その屋敷に関連

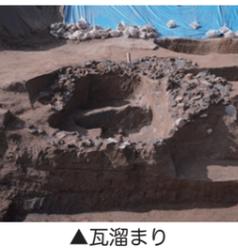
弥生時代中期後半の集落跡を確認！
一色青海遺跡
 (稲沢市儀長町二丁目)
 一色青海遺跡は、稲沢市の旧河道自然堤防上に立地します。
 調査では、竪穴建物跡8棟、方形周溝墓3基が発見され、これまでの調査で確認された弥生時代中期後半の集落跡が続くことが確認されました。

古墳時代の溝を確認！
廻間遺跡
 (清須市廻間)
 廻間遺跡は、清須市の名古屋第二環状自動車道と名鉄名古屋本線が交差する付近に位置します。
 調査では、古墳時代初頭の溝が発見され、墳丘墓に伴うものと推定されるほか、古墳時代後期の溝や戦国期江戸時代の水田関連遺構なども見つかりました。

戦国期の堀・江戸時代の遺構を確認！
名古屋城三の丸遺跡
 (名古屋市中区三の丸二丁目六―二)
 名古屋城三の丸遺跡は名古屋城の南側に位置し、武家屋敷があった所です。
 戦国期の遺構では、断面形がV字になる薬研堀状の溝が5箇所、深さ5mに達する大型の溝が1条確認され、戦国期の那古野城を考える上で重要な成果となりました。
 今回の調査地点は江戸時代には武家屋敷でも屋敷裏にあたる場所で、17基の井戸や、水琴窟を含む埋蔵遺構、池の跡の可能性のある遺構も見つかり、ここに庭園があった可能性が示唆されました。



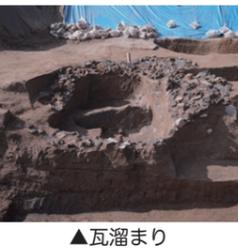
戦国期の薬研堀



井戸の側板



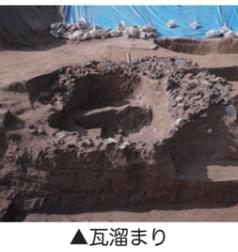
戦国期の薬研堀



井戸の側板



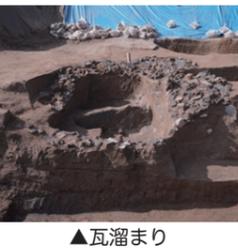
戦国期の薬研堀



井戸の側板



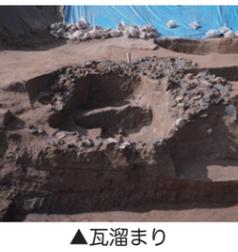
戦国期の薬研堀



井戸の側板



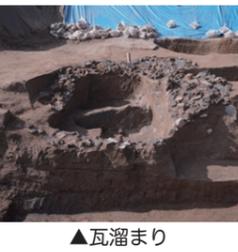
戦国期の薬研堀



井戸の側板



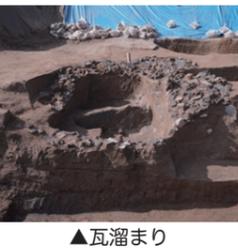
戦国期の薬研堀



井戸の側板



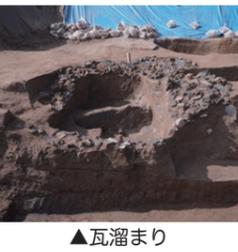
戦国期の薬研堀



井戸の側板



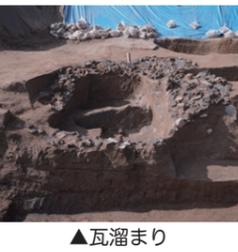
戦国期の薬研堀



井戸の側板



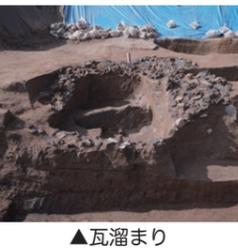
戦国期の薬研堀



井戸の側板



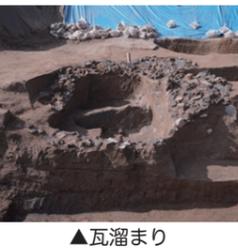
戦国期の薬研堀



井戸の側板



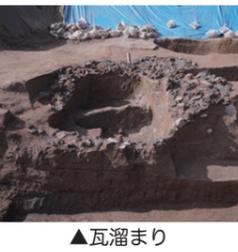
戦国期の薬研堀



井戸の側板



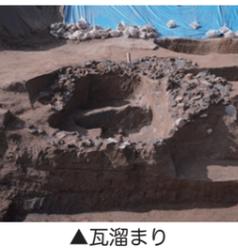
戦国期の薬研堀



井戸の側板



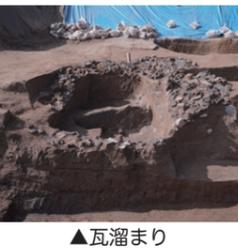
戦国期の薬研堀



井戸の側板



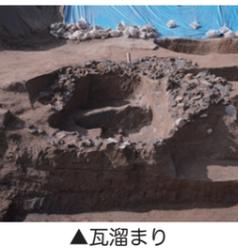
戦国期の薬研堀



井戸の側板



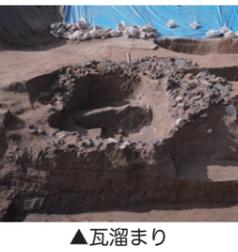
戦国期の薬研堀



井戸の側板



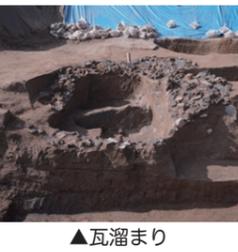
戦国期の薬研堀



井戸の側板



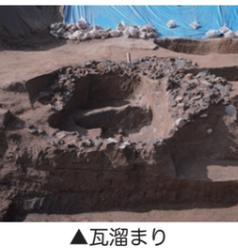
戦国期の薬研堀



井戸の側板



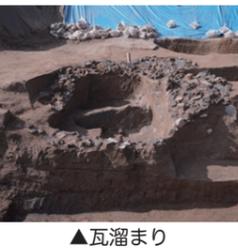
戦国期の薬研堀



井戸の側板



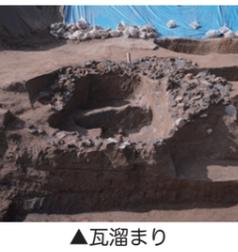
戦国期の薬研堀



井戸の側板



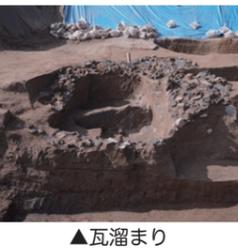
戦国期の薬研堀



井戸の側板



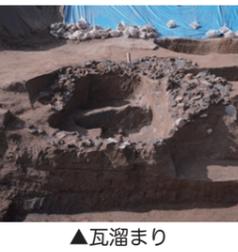
戦国期の薬研堀



井戸の側板



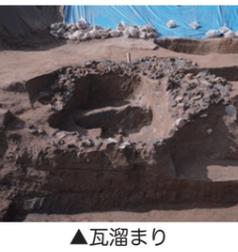
戦国期の薬研堀



井戸の側板



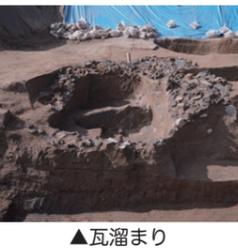
戦国期の薬研堀



井戸の側板



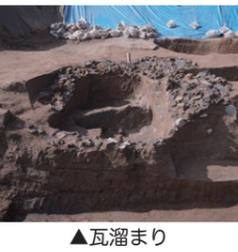
戦国期の薬研堀



井戸の側板



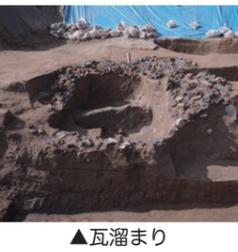
戦国期の薬研堀



井戸の側板



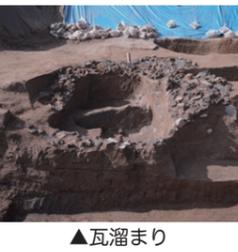
戦国期の薬研堀



井戸の側板



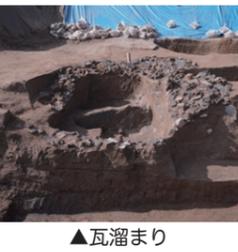
戦国期の薬研堀



井戸の側板



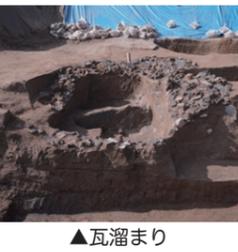
戦国期の薬研堀



井戸の側板



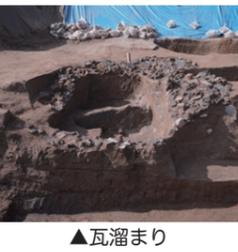
戦国期の薬研堀



井戸の側板



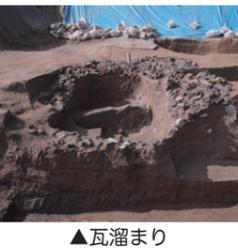
戦国期の薬研堀



井戸の側板



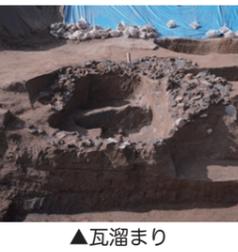
戦国期の薬研堀



井戸の側板



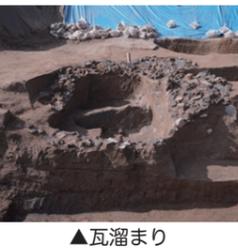
戦国期の薬研堀



井戸の側板



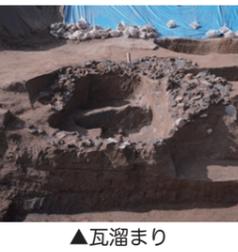
戦国期の薬研堀



井戸の側板



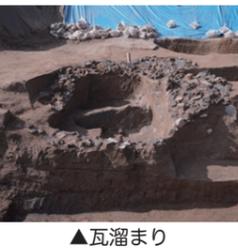
戦国期の薬研堀



井戸の側板



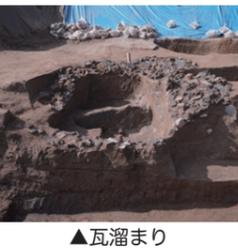
戦国期の薬研堀



井戸の側板



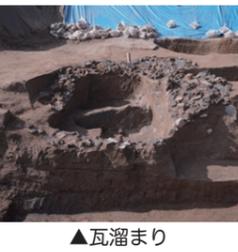
戦国期の薬研堀



井戸の側板



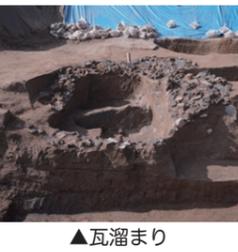
戦国期の薬研堀



井戸の側板



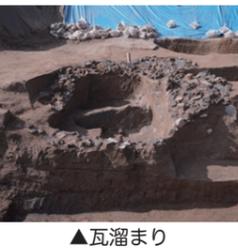
戦国期の薬研堀



井戸の側板



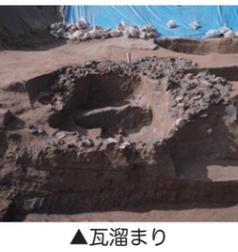
戦国期の薬研堀



井戸の側板



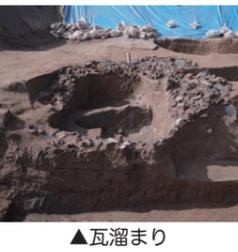
戦国期の薬研堀



井戸の側板



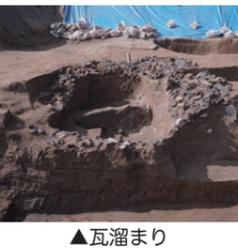
戦国期の薬研堀



井戸の側板



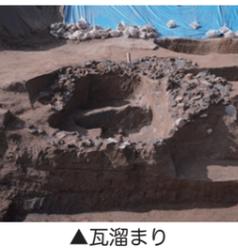
戦国期の薬研堀



井戸の側板



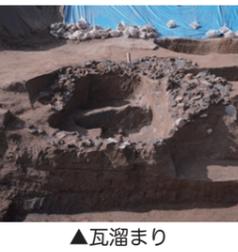
戦国期の薬研堀



井戸の側板



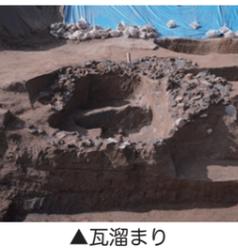
戦国期の薬研堀



井戸の側板



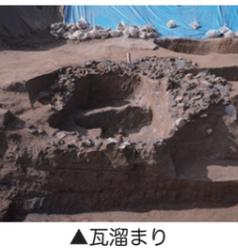
戦国期の薬研堀



井戸の側板



戦国期の薬研堀



井戸の側板